

◆まちづくりの主要課題の整理

(1) 安心・安全のまちづくり

阪神淡路大震災時の滋賀県内の最大震度は彦根市の震度 5、本市では震度 4 を観測し、平成 19 年 4 月 15 日の三重県中部地震では震度 3 を観測しています。また、東南海・南海地震被害想定（平成 24 年 8 月 29 日、内閣府発表）における本市での想定震度は 6 弱となっています。

近年では、全国的に局地的豪雨、土砂崩れなどの自然災害も多く発生し、各地で深刻な被害をもたらしているなか、日頃から市民の防災意識を高めるとともに、地域防災力向上のための支援が必要です。

また、わたしたちの生命、暮らし、財産を守るため、防犯や交通安全に対する意識を高め、活動に取り組むことで、子どもから高齢者まですべての世代にとって安心・安全な地域づくりも大切です。

(2) 人権を尊重したまちづくり

人権が尊重される、豊かで安心できる暮らしを守るためには、市民一人ひとりが「人権」について正しい理解と認識を深めることが重要です。同和問題をはじめとした人権問題を身近なこととしてとらえ、さまざまな人権問題の存在に気づくことによって、心のバリアを解消していくことが必要です。互いの違いや価値観を認め合い、広く人権が尊重された地域づくりやまちづくりを展開していくことが大切です。

(3) 市民参加によるふるさとづくり

市民と行政による協働のまちづくりについては、平成 26 年 3 月にまちづくり協議会条例を制定して進められていますが、参加者の固定化や人材不足等の問題を抱えています。市民はこれまで地域で進められてきた清掃活動や地域での支え合いについては意識が高いものの、地域の問題を当事者として解決することや市の施策に参画することに目を向けることが少ない状況です。しかし、多くの市民の希望である住みやすいまちを実現し、人口の減少を食い止めるためには市民が地域への誇りと愛着、協働の重要性を再確認し、ふるさとづくりに積極的に参加することが必要です。

また、市民の活動範囲の広がりを考えると、生活や交通等の利便性向上のための課題については、本市だけでなく近隣市町との連携により大きな効果が期待できます。

(4) 豊かな自然とともに暮らす

本市の中心を流れる野洲川は、市民の憩いの空間となるだけでなく、共有の財産として市民の手による保全活動も進んでいます。また、市の南北には阿星山、岩根山系の豊かな森林が広がり、さらに田園風景も多く見られます。将来の湖南市について、市民の多くは自然が豊かであり続けることをイメージし、またそのことを誇りに考えています。

このような恵まれた自然とともに、健康で快適な暮らしをめざすためには、市民と企業、行政がともに自然環境の保全や活用に取り組む態勢を構築する必要があります。

(5) 持続的发展を導く環境整備

本市は、近畿圏と中部圏をつなぐ広域交流の要衝であり、名神高速道路のインターチェンジが近いことや国道1号および国道1号バイパスが市内を東西に横断していることなどによって立地が良く、国道1号バイパスと名神高速道路の接続などによって、その好立地性はさらに高められるものと思われます。

この恵まれたポテンシャル（潜在能力）を活かし、企業誘致策の充実や都市計画マスタープランに基づく土地利用の適正誘導を図るなど、今後とも発展し続ける環境づくりが必要です。

また、これまで道路や上下水道などの都市基盤の量的な拡大を進めてきましたが、これからは計画的な維持管理、修繕を進めていく必要があります。

(6) 利便性の高い交通ネットワークの形成

市内の道路の一部では朝夕の通勤・通学時間帯に渋滞が生じており、市民生活や通過交通に大きな影響を与えています。さらに、市民が湖南省市に住みにくい理由として交通が不便であること、理想のまちとしても「道路や公共交通が快適で便利なまち」が望まれていることから、道路交通や公共交通の利便性を高めた交通ネットワークを形成する必要があります。

また、駅舎のバリアフリー化、コミュニティバスの充実、歩行者や自転車が安心して通行できる安全な道づくりを進める必要があります。

さらに、交通ネットワークの拠点であり、にぎわいの核となる「まちの中心核」の創出を図るために、JR草津線の石部駅、甲西駅、三雲駅の3つの駅の周辺市街地環境の向上を図る必要があります。

(7) 商業サービスの強化と充実

近年、全国的に多数の大型小売店舗が郊外に進出したことにより、車社会に対応した商業環境が大きく進化し、買い物の利便性や多様性が高まりました。本市においても、平成26年末に大型小売店舗が整備され、市外への消費の流出が抑えられることが期待されています。しかし、市街地や住宅地における小規模小売店が減少し、車に頼ることができない高齢者や学生等の市民にとって日常の消費生活が不便な状態は続いています。これらのことから便利で豊かな消費生活を支えるためには、交通網の充実や多様な形態の商業サービスの提供、商業施設の更なる充実が望まれます。

(8) 観光ネットワークの形成

積極的な観光情報の発信により常楽寺、長寿寺、善水寺の湖南三山の普及が進んでいます。今後は十二坊温泉ゆらら、じゅらくの里等多彩なレクリエーション施設や、貴重な国指定天然記念物のうつくし松をはじめとした自然資源とのネットワークとともに、観光客を迎え入れるための環境整備が重要になっています。

また、市内の伝統産業や農林業、観光との連携により、伝統工芸会館や「こなんマルシェ」での体験観光、弥平唐辛子の特産物を活かした商品開発が進んでいます。今後は、地域の特産品のブランド化とともに、関係機関と連携した一層のPRが必要です。

(9) 地域での教育・福祉・健康のネットワークづくり

多くの市民は湖南省が住みやすい理由として「近所の人たちがあたたかいから」をあげ、地域で困っている人を地域で支え合うことへの参加意欲も高いことから、良好な近隣関係が築かれていることが伺えます。本市においては、先進的な福祉施策が進められてきた経緯があり、このような福祉環境と高い市民意識を活かしながら、子どもや子育て家庭、障がい者、高齢者が安心して暮らせるあたたかい地域福祉のネットワークづくりが期待できます。

また、高齢化が進む中、国においては平均寿命のみに着目するのではなく、健康寿命を延伸させるような施策に重点を置きつつあります。本市においても健康診査など保健サービスの充実や市民の自主的な健康づくり活動の推進が望まれており、健康に対する意識は高まっています。今後は、大人だけでなく子どもも含めた誰もが心と身体を守るための活動に積極的に取り組めるような支援が必要です。

(10) 心豊かな人づくり

少子化の進行や核家族化、地域コミュニティの希薄化などにより、家庭や地域の子育て力が低下するなど、子どもたちの生育環境には厳しいものがあり、生きる力の確実な養成が一層重要となっています。

また、青少年が積極的に社会に関わりを持ち、自立心や責任感、連帯感、寛容性などの人間性と社会性を養えるよう、人権尊重の精神に基づきながら青少年の健全育成に取り組む必要があります。

「誰もがいつでもどこでも」学習することができ、学習成果を生かすことのできる「生涯学習社会」の実現には、学校教育の充実はもとより、社会教育、家庭教育、その他様々な場や機会における学習の充実・環境整備が必要です。さらに、地域の抱える課題が多様さと複雑さを増しており、それぞれの地域コミュニティにおいて解決を図ることが一層重要となっていることから、課題解決の担い手を育てるための取組みも重要となっています。

(11) 歴史文化を大切にすまちづくり

湖南三山の常楽寺、長寿寺、善水寺や東海道五十三次の宿場の名残をはじめ、本市には多くの歴史文化遺産が点在します。これらの貴重な歴史遺産を保全・継承するとともに、その周辺を含めた環境づくりなどに取り組むことが求められています。